

青梅市文化財ニュース

第424号

令和5年2月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市立藤橋小学校

この文化財ニュースでは、今まで市立若草小学校まで紹介してきました。今回紹介する市立藤橋小学校は、明治6(1873)年に設立された「神教学舎」が原点といえる学校と思います。

藤橋村は藤橋城があったことなどから早くから開け、東側の今井村との間には七の日に市も立ちにぎわった村です。明治22(1889)年の町村制の施行により、霞村の一部になりましたが、学制が公布されてすぐの明治6年7月15日には藤橋村だけの学校が開設されました。場所は不明ですが、他の村のほとんどが寺院の一部を間借りしての開設でしたので、この「神教学舎」も藤橋村内の寶泉寺を間借りしての開設ではなかったかと想像されます。その時の教師は松村敬治氏で、児童数は男子60名女子36名と記録にあります。

明治の初期は江戸時代と変わらない村の規模だったので、学校を作り、なお且つ教師に給料を払うことなど村の経済事情からは大変なことでした。藤橋村も多分そのような事情からその10年後の明治16(1883)年、「神教学舎」を廃して今井村と共同で「和睦学校」を設立します。これも場所は不明ですが、人口が藤橋村より多かった今井村の内に設立されたものと思います。その後明治22年市制町村制が施行され、根ヶ布村・上下師岡村・吹上村・野上村・大門村・塩船村・谷野村・木野下村・今寺村・藤橋村・今井村・新町村の13ヶ村が合併して霞村ができると、霞地区内に設立されていた「正梯学舎」、^{ほろ}「蒲廬学舎」、^{こうぶん}「耕文学舎」、^{めいりん}「明倫学舎」、^{わぼく}「和睦学校」の5つの学校が順次統合されていきます。

明治39(1906)年、今の市立第三小学校の場所に「霞村立霞尋常高等小学校」ができると、霞尋常高等小学校(現三小)、東霞尋常小学校(現今井市民センター)、西霞尋常小学校(現簡易裁判所)と整理され、最終的には、霞尋常高等小学校が本校で、師岡と今井と新町が分校という形になっていきます。

藤橋地区の子供たちがこの当時どこに通ったかは不明ですが、上級生になると今の第三小学校の所まで通学したことは確かです。

昭和26(1951)年、旧青梅町・調布村・霞村が合併し、青梅市が誕生すると、霞尋常高等小学校は青梅市立霞小学校と名称を変えます(第三小学校となるのは2年後の昭和28(1953)年です)。

話は変わりますが、青梅市の東部地区は、東青梅駅を起点とすると、多摩川は南東方

向に、霞川は北東方向に流路を変えていきます。つまり、水の得にくい武蔵野台地は東青梅駅を起点に扇形に広がっています。このような関係から、旧霞地区の村々も、東西の距離は短いのですが、南北の距離はかなりあり細長い形になっています。現に藤橋村も最北は笹仁田峠の所ですが、南は畜産試験場（区画整理終了後は新町6丁目）の南側までありました。つまり、人家は主に霞川に沿って点在していますが、その南側には広大な畑や平地林が広がっているという状況です。そのため、町屋街道（今の茶畑通り）から南側も三ツ原地区として区画整理事業の対象になりました。また、霞川に沿った段丘の下部分は長い間水田地帯として存在していましたが、ここも多くは埋められ住宅地へと変わっていききました。

昭和53(1978)年4月1日、第三小学校から独立して、「今井小学校」（16学級）が新設されます。しかしながら今井小学校もどんどん児童数が増えていきました。早くも新しい学校の設立が計画され、昭和57(1982)年には今井小学校の中に、新設校設立準備委員会が発足し、分校についての準備が始まります。校舎も旧藤橋村の中心部よりは大分南側の現在地の所に校地を求め、建設が始まっていました。

昭和58(1983)年4月1日、青梅市17番目の小学校として、児童数326名・10学級、教職員16名で初代校長に土井良英一氏を迎え、青梅市立藤橋小学校が開校しました。明治の初めに藤橋村の人々が開設した「神教学舎」が廃止されてからちょうど100年後に新しく藤橋にできた小学校です。何か運命的なものを感じます。

旧藤橋村の中心部よりだいぶ南に造ったため、藤橋3丁目や今井3丁目等を学区とし（藤橋1・2丁目は今井小学校の学区）、卒業生は新町中学校へ入学します。

そして設立3年目の昭和61(1986)年には、東京都児童生徒のボランティア活動普及事業協力校の指定も受け、学校としての土台作りに力を注いできました。

令和4(2022)年には第12代校長として樋口純子氏を迎え、細やかな発想で教職員一丸となって子供たちの教育に力を注いでいるとのこと。

今年は、設立40周年の節目の年でもあります。大規模な周年行事は計画していないのですが、児童会の代表委員会を中心とし、「藤橋小学校おめでとう！40歳」（仮称）のような児童の思い出に残る会を検討しているとのこと。

（文責 神森 正）

注：青梅市では当初ナンバースクールが始まった時は算用数字を使用していましたが、平成8年に条例改正が行われ漢数字に改められました。なお、本文中の表記は漢数字に統一しています。

